



# Cisco Elastic Services Controller の Amazon Web Services へのインストール

この章では、AWS に Cisco Elastic Services Controller をインストールする手順について説明します。この章は次のセクションで構成されています。

- [前提条件 \(1 ページ\)](#)
- [AWS での Elastic Services Controller インスタンスのインストール \(2 ページ\)](#)

## 前提条件

次に、AWS で ESC インスタンスのインストールを開始する前に完了する必要がある前提条件を示します。



- (注) ESC AMI イメージが AWS アカウントと共有されている場合は、これらの前提条件を無視して、ESC のインストールに AMI イメージを直接使用することができます。

### 手順

- ステップ 1** AWS CLI を設定します。pip を使用して AWS CLI をインストールできます。詳細については、[AWS ドキュメント](#) を参照してください。
- ステップ 2** アカウント情報に基づいて AWS CLI のクレデンシャルを設定します。
- ステップ 3** Amazon S3 バケットを作成します。ESC イメージをアップロードするには、バケットにこれを使用します。
- (注) VM のインポートを許可する `vmimport` というロールを持っている必要があります。また、このロールに IAM ポリシーをアタッチする必要があります。詳細については、AWS での S3 バケットの作成に関する [マニュアル](#) を参照してください。
- ステップ 4** ESC ova ファイルから vmdk ファイルを抽出します。

```
$ tar xvf ESC-<latest image file>.ova ESC-<latest image file>-disk1.vmdk
```

## AWS での Elastic Services Controller インスタンスのインストール

「前提条件」の項に記載されたタスクを完了すると、次の手順に沿って AWS で ESC インスタンスを展開および起動できます。

### 手順

#### ステップ 1 ESC イメージをアップロードして登録します。

- a) S3 バケットに vmdk イメージをアップロードします。

```
aws s3 cp <esc-vmdk-file> s3://<S3 bucket name>/
```

- b) イメージを登録します。

```
aws ec2 import-image --description "<esc-vmdk-file>" --disk-containers  
file://containers.json
```

#### ステップ 2 ユーザーデータを作成します。

- a) ESC VM のユーザを作成します。ユーザが存在しない VM にはアクセスできません。Sudo アクセスおよび ssh キーを使用して「admin」ユーザを設定することをお勧めします。
- b) write\_files コマンドを使用して、ユーザーデータに esc-config.yaml を作成します。

インスタンスのタイプに応じて、各インスタンスに最大 15 のインターフェイスを実装できます。

(注) 2つのインターフェイスを使用する場合は、あらかじめ2つのネットワークインターフェイスを作成してください。2つのインターフェイスが異なるサブネット上にある場合、同じ可用性ゾーンに属している必要があります。AWS コンソールからインスタンスを起動するときに、[インスタンスの詳細設定 (Configure Instance Details)] タブにインターフェイスの詳細を追加します。

- c) esc\_service を有効にして開始します。

完全なユーザーデータの例を以下に示します。

```
#cloud-config  
# It is recommended to disable password authentication for ssh when ESC runs in public  
cloud such as AWS.  
ssh_pwauth: False  
users:  
- name: admin  
  # Put admin in 'esc-user' group, otherwise some scripts of ESC might fail when running  
  as admin.  
  groups: esc-user
```

```

gecos: User created by cloud-init
# This is an example of the hashed password for 'admin'.
passwd:
$6$rounds=656000$pswsUsR7Iz9NlFA4$7E1sEGV8rhDieNhc8241YwL3cQ8Rsp9Ndis.OzBe9rG/DE56YwK0kDZcB.DsjATrj9pcEnAe.rSQpWl12r0N/

# The public key for admin user. Replace it with your public key to login.
ssh-authorized-keys:
- ssh-rsa
AAAAB3NzaC1yc2EAAAADAQABAAQACgLE4EVVI/rQy4e4jZUEnc5PvYItc39x5fz9rRggZzpwYzKXSj+UnWQMgvkIai+
M5vTPiEYTSZx9PmIKayZaLr/2GiLmRNEgyzvjD5v77w3Pg7eHFLKLYbu7ausYqFEbngSTG1Pwhoz2geY4zND9hS3eVhNwXNSIpb3ftzarQoqtWSz2aRc81M/
piy6NcBzJ3Jeh4rOk9bQ+QxRAYm3bOlq/qRfuoxmrsgd68xAlXeDwyGumEThXN9MDEcQMIW054fiPQgkqKbZWztH2EBnE9/B6rZCRBUUvdcQhQt2L/
hbCZN1k+oqQ53r1G/Bjt09CGfYbgoHq2v
# false allows you to sudo with the password.
lock-passwd: false
homedir: /home/admin
# sudo settings
sudo: ALL=(ALL) ALL
write_files:
- path: /etc/cloud/cloud.cfg.d/sys-cfg.yaml
  content: |
    network:
      version: 1
      config:
        # You must define the name server when you use the static IP address.
        - type: nameserver
          address:
            - 172.31.0.2
        # Define physical network interface
        - type: physical
          name: eth0
          subnets:
            # Define the static IP address
            - type: static
              address: 172.31.5.66
              netmask: 255.255.240.0
            # Define the routes
            routes:
              - gateway: 172.31.0.1
                # 0.0.0.0 means the default gateway
                network: 0.0.0.0
                netmask: 0.0.0.0
# ESC service config file
- path: /opt/cisco/esc/esc-config/esc-cfg.yaml
  content: |
    confd:
      # AAA users for ConfD
      init_aaa_users:
        # Public key for ConfD user 'admin'
        - key:
            c3NoLXJzYSBBQUFBQjNOemFDMXl1MkVBQUBREFRQUJBQUFCQVFDeFkwMzByaEMzSXl1WekF2bStISVlmMmpkdm
            RUZndITEpCRjVPTjZoUEgVtK2FBTkkzbONCSmJndjhPdjrTtVXUV0huT0xCE1mZ2pzTmF1S1F1QVJUMetDS2VBS3k4aUVqSUZp2DhWZ3
            T1h2SzZrT2YrUnZkSDFtNjhsclVlrWU9uZVErNEtOak5tQXRwV0huT0xCE1mZ2pzTmF1S1F1QVJUMetDS2VBS3k4aUVqSUZp2DhWZ3
            NiS1A0aDnpTzdjcTkza0ElZGFQb0xiNWRKRvP3ZW15WS9ENGp6ZnJUEeDVKWFFuMy80SDdaQVZPaWcyNzBGUn1GVkZhfNF11VXNYcDk1d3
            QveHdpc0RUREVCYTYdyjKxQzdXamtaNy9rYkR1RW9VSU9OZExqdEdvbU84c2JRUUJoZHEVITZ1NXJkeU12VzQ3YTZYOFa5N21BR3JrQ09
            qMWVHNkYgeG1hb3hpbnlAWElBT1hJTlktTS1SRVhXCg==
            # Note: 'admin' is the only user supported and you cannot change the name here.

            name: admin
            # Hashed password for admin user.
            passwd:
            $6$rounds=656000$4hZhtniblo4/b0m$fd3./1H3jcP1WAEWiflu70i5wK9H9DiasDwtKl.p70UFZ1falzD907utL1NkKwuchNnxIOrvYagkBFq6PWh.

        # No specific settings for esc service. Leave it empty.
        esc_service: {}

```

```
runcmd:
- [ cloud-init-per, once, escservicestart, sh, -c, "chkconfig esc_service on && service
  esc_service start"]
```

ユーザデータに 2 つのインターフェイスを定義する例を以下に示します。

```
- path: /etc/cloud/cloud.cfg.d/sys-cfg.yaml
  content: |
    network:
      version: 1
      config:

- type: physical
  name: eth0

  subnets:

- type: static
  address: 172.31.5.66
  netmask: 255.255.240.0
  # Define the routes
  routes:
  - gateway: 172.31.0.1
    # 0.0.0.0 means the default gateway
    network: 0.0.0.0
    netmask: 0.0.0.0

- type: physical
  name: eth1

  subnets:

- type: static
  address: 172.31.51.220
  netmask: 255.255.240.0
```

### ステップ 3 AWS で ESC VM を起動します。

次のいずれかの方法で、ESC VM を起動します。

- **ポータルから起動：**

1. EC2 管理コンソール、IMAGES/AMI に移動します。インポートしたイメージを選択し、[起動 (Launch)] をクリックします。
2. インスタンスタイプを選択します。インスタンスタイプとして `t2.xlarge` を選択します。
3. インスタンスの詳細を設定します。ユーザデータ、ストレージ、タグ名などの詳細を追加します。2 つのインターフェイスを使用する際は、ネットワークインターフェイスの作成と設定をここで行います。
4. セキュリティグループを設定します。ssh のみを有効にします。
5. [作成 (Launch)] をクリックします。

- **コマンドラインから起動：**イメージ、サブネット、セキュリティグループを選択し、次のコマンドを使用して ESC VM をインスタンス化します。

```
aws ec2 run-instances --subnet-id <subnet id> --image-id <image id>
```

```
--security-group-ids <security group id> --count 1  
--instance-type <instance> --key-name <key name> --user-data <user data file location>  
--associate-public-ip-address
```

(注) ESC は AWS での HA アクティブ/スタンバイのインストールをサポートしていません。

---

### 次のタスク

ESC VM を起動した後、\$ sudo escadm status コマンドを使用して ESC サービスのステータスを確認します。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。